

2022（令和4）年7月28日

相愛大学自己点検・評価委員会
委員長 釈 徹宗 殿

自己点検・評価実施委員会
委員長 中村 圭爾

自己点検・評価実施報告書

この度、「相愛大学自己点検・評価指針 2018」（以下、「評価指針 2018」と略する。）に基づき、2021（令和3）年度における「相愛大学第2次将来構想」（以下、「第2次将来構想」と略する。）の実施につき、自己点検・評価実施委員会（以下、実施委員会と略する。）を開催し、その進捗状況等を確認し、点検・評価を実施したので、その概要と結果を報告する。

1. 実施委員会

- 開催日 2022（令和4）年7月12日
- 実施委員会委員
中村 圭爾（委員長・副学長）、和田 恵昭（事務局長）、石崎 哲朗（総務部長・学長室長）、藤永 慎一（教学・入試事務部長）、泉 貴子（音楽学部）、藤谷 忠昭（人文学部）、直島 正樹（人間発達学部子ども発達学科）、品川 英朗（人間発達学部発達栄養学科）、沼田 潤（共通教育センター副センター長）
- 事務担当
谷川 由紀（学長室課長）

2. 自己点検・評価の対象

自己点検・評価の対象は「第2次将来構想」の大項目および中項目の2021（令和3）年度における実施、進捗状況である。

3. 自己点検・評価の根拠資料

自己点検・評価の根拠資料は、「第2次将来構想」の内容を反映して作成された2021（令和3）年度「事業計画書」および「事業報告書」である。以下、両者の作成経過と実施委員会の対応について説明する。

2021（令和3）年度「事業計画書」については、作成段階で実施委員会事務局より作成担当各部署に対して、前年度における「第2次将来構想」の項目の実施状況をふまえ、項目のさらなる実現をめざした事業計画立案を要請し、一部部署については、その趣旨にそった補足を要請した。

また、次年度予算案策定においては、実施委員会から作成担当各部署に対して、年度途中における事業計画の進捗状況を点検し、次年度の事業実施に配慮したものとすること、2021年度末の「事業報告書」作成に当たっては、「事業計画書」に基づき、「第2次将来構

想」実施との関連を重視したものとすることを、要請した。

4. 自己点検・評価実施方法と実施

点検・評価の作業は、実施委員会委員長と学長室長及び学長室課長が、以上の「事業計画書」「事業報告書」の内容を対比しつつ実施した。

具体的な作業内容として、「事業計画書」中の将来構想に係る事項を抽出し、「事業報告書」における事業の実施状況等と対比して、その実施状況を点検・評価し、「第2次将来構想」の項目別に「実施一覧表」を作成した。

ただし、毎年度の「事業計画書」の諸事業は、中期的期間において実現することをめざす「第2次将来構想」の全項目を網羅しているのではないこと、各部署における年間の活動の中で、諸種状況によって急遽「事業計画書」にない項目の実施に着手する場合もありうることから、「事業計画書」と「事業報告書」における計画と実施の機械的な対比のみではなく、「第2次将来構想」諸項目で「事業計画書」に記載のない事業であっても、「事業報告書」において実施実績が認められるものについては、点検・評価の対象とした。

「実施一覧表」を含む本「報告書」は、実施委員会委員長と学長室長及び学長室課長が作成した原案を実施委員会において審議、承認したものである。

5. 今回の自己点検・評価に関する経緯と総評

はじめに本総評の前提となる状況を述べておきたい。

「第2次将来構想」を基幹とする本学の自己点検・評価は、2018年度から始まり、昨2021年度で4年を経過した。この間、2019年度後期後半から2022年度の現時点まで、新型コロナウイルス感染症蔓延の急激な拡大、一時的沈静化、再拡大の繰り返しにより、大学の諸活動は遅滞、中断、再開という不安定な実施状況を余儀なくされ、事業計画にも多大の影響が出ている。

2021年度事業計画は新型コロナウイルス感染症の短期的な状況変化を予測できないまま、概ね前年度実績を踏まえつつ立案したものであるが、年度初期から期中までの感染拡大状況の継続により、事業計画の実施に支障が生じ、また事業計画外での対応についても、創意工夫が不可避となった。ただ、前年度までの経験を活かして、教育面では、「対面授業に代わる授業方法」の推進による、旧来の授業方式と同等またはそれを上回る学修成果を担保しうる授業方法の継続と多様化、遠隔授業の増加という状況の中でICTの環境整備計画立案等が主たる実績となった。また、学生支援の面では、在宅の機会が多い学生生活上の困難への配慮や健康管理への注意喚起、新たな就職活動方式への対応等諸方面での例年に増しての支援など、事業計画立案時には予期し得なかった努力が払われた。

学生募集においても、従来とは異なる状況に対応した活動があり、地域貢献、国際交流においては、関連事業の性格上、事業実施に多くの制限があった現実を斟酌した点検・評価の結果となっていることを付記したい。

期中以後は、感染状況の改善に伴い、期中以前の事業状況の挽回に努めたと判断されるものの、年度計画全体への影響は少なくない。

従って、点検・評価の総評としては、必ずしも事業計画の所期の目的を十全には達成したとは言い難い取組が少なくないことを認めざるを得ないものの、事業計画外の、2021年

度に特有な事業については、一定の実績を残せたものと判断したい。

6. 「第2次将来構想」見直しの実施

2021（令和3）年6月17日に、2021（令和3）年度第1回自己点検・評価委員会において承認され、同日の大学評議会に報告された「2020（令和2）年度 自己点検・評価報告書」では、「第2次将来構想」の見直しに言及している。その趣旨は、中期計画的性格を持つ「第2次将来構想」が2018（平成30）年度より3年を経過しているもので、この間の実績を踏まえ、後半期にむけて一定程度の見直しを行いたいというものである。なお、この件は、「事業報告書」に関わるものであることから、2021（令和3）年5月13日の常任理事会において、審議事項1.「令和2年度事業報告書（案）及び決算書（案）の件」において、口頭で報告を行った。

見直し作業は、自己点検・評価実施委員会が進め、一部改訂を11月18日開催の大学評議会で審議承認した。

これを承け、2021（令和3）年度第2回自己点検・評価委員会（11月18日開催）で、委員会委員長（学長）より、2021年度自己点検・評価の確認、2022年度「事業計画書」及び予算申請については、改訂内容を反映するものとするものの指示があった。

7. 2022年度認証評価受審にむけての準備活動

2020年度第3回自己点検・評価委員会（2021年3月11日開催）において、2022年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審することが決定され、委員会委員長・金児学長より、2021年度は、それまでにもすでに開始していた受審準備をさらに徹底することへの要望があった。

令和3（2021）年度第7回大学評議会（2021年12月16日開催）において、自己点検評価書およびデータ集作成にむけ、学長より各部局・部署における該当基準項目に係るエビデンスの用意などへの協力要請があった。また、2021（令和3）年度第3回自己点検・評価委員会（2022年1月20日開催）において、学長より、以後のスケジュールの紹介、全学一体となり、万全の体制で認証評価に臨むべきものであるとの発言があった。

その後は、学長室を中心に、「自己点検評価書」編集作業を実施している。

8. 今後の自己点検・評価の課題について

2022年度高等教育評価機構の認証評価の結果を分析しつつ、本学の現行の自己点検・評価体制の在り方について、年度末までに改善方策等の検討を行う必要がある。

また、事業計画・事業報告の記述内容について、将来構想の内容とのより緊密な形式について、法人の担当部署との協議・調整を進める余地があることを補足したい。

※ 相愛大学 第2次将来構想実施一覧表＜2021（令和3）年度＞